

～令和3年12月静岡県議会定例会における質問～

質問者：小長井 由雄 議員

質問日：令和3年12月10日（金）【3番目】

会派名：ふじのくに県民クラブ

項目	1 県内港湾におけるカーボンニュートラルポートの形成に向けた取組について
答弁者	知事
質問要旨	<p>先日のCOP26において、岸田首相も改めて「2050年カーボンニュートラル」の実現を宣言した。</p> <p>官民で脱炭素社会に向けた機運が高まるなかで、国の「第6次エネルギー基本計画」や、地球温暖化対策推進法に基づく政府の総合計画である「地球温暖化対策計画」が閣議決定されたところ。</p> <p>政府の方針を受けて国交省では、港湾から積極的に脱炭素社会に向けた取組を行うことを目指し、「カーボンニュートラルポート（CNP）」の形成に取組もうとしている。</p> <p>国の方針では、重要港湾以上で「カーボンニュートラルポート（CNP）」形成計画を作成し、それに沿った脱炭素化を推進していく。</p> <p>本県は、令和2年7月にENEOS（株）と基本合意書を締結し、静岡市を含めた3者で脱炭素社会の実現に貢献する地域づくりを推進することを表明したと聞いている。</p> <p>そこで、県内港湾におけるカーボンニュートラルポートの形成に向けてどのような取組を行うのか伺う。</p>

<答弁内容>

小長井議員にお答えいたします。県内港湾におけるカーボンニュートラルポートの形成に向けた取組についてであります。

本県では、地球規模の課題である気候変動問題の解決に向けまして、国の2050年カーボンニュートラル宣言と同様に、「2050年までに温室効果ガスの排出量を吸収量と均衡させて実質ゼロとする脱炭素社会の実現」を目指しております。また、2030年度までに、温室効果ガスの排出量を2013年度と比べて46%以上削減してまいります。

この目標を達成するため、現在、新たな地球温暖化対策実行計画の本年度内の策定に向け、作業を進めているところであります。この計画の主要な施策の一つが、港湾分野における「カーボンニュートラルポートの形成」であります。

県では、一早く、脱炭素社会の実現に向けた取組を始めました。脱炭素社会の実現のためには、再生可能エネルギー等の導入、水素の利活用、一定の範囲内での地域の自立分散型エネルギーシステムの導入等々が重要な役割を果たすこととなります。そこで清水港の袖師地区をモデルとして、清水駅前のENEOS株式会社の用

地を活用していくことについて意見交換し、ご指摘の通り昨年7月にENEOS株式会社と基本合意書の締結に至った次第でございます。

その後、清水港全体で脱炭素化に取り組むことといたしまして、海外から水素等の大量かつ安定・安価な輸入を可能とする受入環境の整備、荷役(にやく)機械の燃料電池化、また荷役機械の電動化などの脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化に加えまして、臨海部に集積する産業との連携などについて検討を進めてまいりました。そして、先月30日に、国、県、市及び清水港周辺で活動を行う企業・団体の33者からなる「清水港カーボンニュートラルポート協議会」を設立いたしまして、清水港の資源や特性を最大限に活かしたカーボンニュートラルポートの実現について、多様な主体の参加による取組を開始したところでございます。

港湾は、地域経済を支える物流拠点であり、また背後に多様な産業が立地し、多くのエネルギーを消費する地域でもあります。港湾地域において先導的な取組を集中的に行うことは、脱炭素社会の実現に大きく寄与するものであります。このため、清水港に加え、田子の浦港、御前崎港においても、各港の特性を踏まえた「カーボンニュートラルポート形成計画」を策定し、その実現に取り組んでまいります。

2050年における脱炭素社会の実現のため、県民や企業の皆様と連携した、社会総がかりによる取組を進め、環境と経済が両立した社会の形成を目指してまいります。

その他の御質問につきましては、副知事、関係部局長から御答弁申し上げます。